

イアン・ブレマー(政治学博士)

ユーラシア・グループ 社長



イアン・ブレマーは国際政治学者、また起業家として、学界、投資・金融業界、政官界など幅広い分野で活動を展開してきました。新興市場はじめ、現在の国際社会においては、政治的意思決定が経済のファンダメンタルズに勝るとも劣らず重要な役割を果たしています。ブレマーは、それらの経済圏におけるビジネス戦略を考えるにあたり、経済分析のみならず、政治的要因のインパクトを的確に判断することが不可欠であると考え、政治学をグローバル・ビジネスの意思決定に役立つものとするべく努めてきました。

ブレマーは、スタンフォード大学で旧ソ連圏における国家・統治システムの構築を研究、1994年に博士号を取得、同大学のフーパー研究所 (Hoover Institution) にスタッフ入りし、弱冠 25 歳で同研究所史上最年少のナショナル・フェローとなりました。その後は、現在講座を持つニューヨーク大学のほか、コロンビア大学、東西研究所 (East West Institute) 等を経て、ワールド・ポリシー研究所 (World Policy Institute) の上級研究員を務めています(1997 年～現在)。2007 年には、世界経済フォーラム (World Economic Forum) が選出する「若手グローバル・リーダー (Young Global Leader)」に選ばれ、現在は *Global Agenda Council on Geopolitical Risk* のチェアマンを務めています。2011 年 1 月にユーラシア・グループが「世界 10 大リスク」の第一位として発表した「Gゼロ」(リーダーなき世界) というコンセプトは、各種メディアの注目を集め、その年のダボス会議のキーワードの一つともなりました。また、2017 年からは、世界経済フォーラムにおける日本戦略グループ (Japan Regional Strategy Group) のアドバイザリーメンバーとなりました。

ブレマーの研究は、主に政治的・経済的変動のただなかにある国々、グローバルな政治リスクに加え、米国の外交政策に焦点をあてており、これまでに 9 冊の著作を発表しています (近年に出版したものは、下記の通り)。

- *The J-Curve: A New Way to Understand Why Nations Rise and Fall* (2006) 英国 *Economist* 誌によって、その年の最優秀単行本の一冊に選ばれました。
- *The End of the Free Market - Who Wins the War Between States and Corporations?* (2010)。和訳版:「自由市場の終焉」(日本経済新聞社)。ニューヨーク・タイムズ・ベストセラーリストのノンフィクション部門 29 位を記録したほか、FT/Goldman Sachs が選ぶ 2010 年のベスト・ビジネス書候補となりました。
- *Every Nation for Itself: Winners and Losers in a G-Zero World* (2012)。和訳版:「G ゼロ後の世界: 主導者なき時代の勝者はだれか」(日本経済新聞出版社)。
- *Superpower: Three Choices for America's Role in the World* (2015)。和訳版:「スーパーパワー: G ゼロ時代のアメリカの選択」(日本経済新聞出版社)。
- 「ジオエコノミクスの世紀: G ゼロ後の日本が生き残る道」(2015) (御立 尚資、イアン・ブレマー共著。日本経済新聞出版社) を発表しています。

ブレマーは、*Harvard Business Review*, *Foreign Affairs*, *Foreign Policy*, *The New Republic*, *Survival*, *Fortune*, *The Los Angeles Times*, *The Washington Post*, *The Financial Times*, *The Wall Street Journal*, *The New York Times* に頻繁に寄稿しているほか、*Time Magazine*, *The International Herald Tribune* 及び webzine 最大手 Slate のコラムニスト、*The National Interest* の客

員編集員、CNN, Fox News, CNBC, Bloomberg, BBC 等の政治コメンテーターを務めています。日本でも、日本経済新聞、日経ビジネス、NHK、テレビ東京はじめ、各種メディアに頻繁に取材を受けています。

1998年1月、当時28歳のブレマーがニューヨークにて設立した調査研究・コンサルティング会社のユーラシア・グループ (Eurasia Group) は、グローバルな政治リスク分析・コンサルティングの分野をリードする専門家集団として成長を続けてきました。現在は、ニューヨーク本部、ロンドン、ワシントンDC、東京、サンパウロ、サンフランシスコ、コネチカットの各オフィスに約90カ国の研究を担当している社員を擁し、東京とサンパウロにはセールス・オフィスも構えています。米国・欧州の多国籍企業、投資銀行、政府系機関など200社を超える顧客に加え、40社を超える日本企業や政府系機関向けにサービスを提供しています。日本顧客の業種は多岐に渡り、大手総合商社、エネルギー会社、重工業、自動車、テクノロジー、電化製品をはじめとする各種製造業、銀行、証券、保険、アセットマネジメント、政府系機関、製薬業、不動産など、国際政治経済の最先端で活躍する幅広い分野の皆様を対象にアドバイスを行うほか、政官界とも頻繁に意見交換を行っています。

2001年、ユーラシア・グループは、政治的安定度を客観的に測定し金融業者をはじめビジネス関係者に役立つものとするを目標に、独自の政治リスク指標を作成しました。ドイツ銀行とのジョイント・ベンチャーとしてスタートしたこの指標「DESIX (Deutsche Bank Eurasia Group Stability Index)」は、ユーラシア・グループの政治アナリストとドイツ銀行の経済アナリスト及びストラテジストたちがそれぞれの専門知識を提供することで編み出した画期的なシステムで、ウォール街で初めて政治学的手法をリスク評価に適用したものです。2007年からは、この手法を応用し、世界の政治リスク指標「Global Political Risk Index (GPRI)」と名前を変え、毎月の指標をお客様向けに配信しています。なお、2015年より、日興アセットマネジメントとパートナーシップを結び、地政学分析を資産運用に融合させるという、新たな取り組みを進めています。

客観性に広く定評のあるユーラシア・グループは、世界各国の政府首脳に(及び野党の指導者にも)助言・提言を行ってきました。ブレマーは、これまで各国の指導者に対し、米国の外交政策や国際情勢について積極的に助言を行っており、その中には、クリスティーナ・ラガルドIMF専務理事、ジョン・ケリー国務長官、米国の民主・共和両党の大統領候補者や、安倍晋三首相、インドネシアのユドヨノ元大統領、ロシアのキリエンコ元首相も含まれます。